

真盛寺客殿・書院及び庫裏



〔指定年月日〕平成七年一月二十九日
〔種別〕有形文化財（建造物）
〔名称〕真盛寺客殿・書院及び庫裏
〔点数〕四棟
〔所有者等〕真盛寺
〔所在地等〕梅里一―一―

有形文化財（建造物）

真盛寺客殿・書院及び庫裏

本寺は天台真盛宗の寺で三井寺とも称され、大正十一年（一九二二）本所業平町（墨田区横川一丁目）から移転してきた。指定の四棟は、木造平屋建瓦葺で客殿の玄関棟と奥殿棟は書院造、書院は数奇屋造、庫裏は明窓付である。玄関棟には式台付の大玄関がある。規模は客殿が五一九㎡、書院が二二五㎡、庫裏が二二三㎡である。

建築年代は、客殿及び庫裏が明治二十六年（一八九三）上棟（棟札写）、書院は慶応元年（一八六五）である（寺誌）。当時の代表的宮廷建築家である宮内省内匠寮技師木子清敬が客殿・庫裏を設計した。なお書院は不詳である。

客殿及び庫裏は、侯爵細川護成が高田老松町（文京区）に建設した和洋館並立住宅の主要部を大正一四年（一九二五）に移築したものである。用材には木曾の御料林の松材を用いたと伝えられ、客殿畳廊下八カ所、二六面の杉戸には細川家御抱絵師の杉谷雪樵とその弟子の近藤樵仙による鳥獣や山水が描かれている。

書院は庫裏として再建されたもので、その一部を移築したと考えられる。改造、増築はあるが、江戸末期の姿をよく留めている。

客殿は住宅の一部を移転したものであるが、当初の形式をよく保存している。明治中期における上流階級（旧大名家）住宅遺構として建築史上及び住宅史並びに障壁画史の上から貴

重である。

また、書院は江戸末期における江戸市中の寺院の庫裏を伝える貴重な遺構である。

なお、本寺移築以外の表座敷等は、北鳥山（世田谷区）の日蓮宗幸龍寺に移築された。

【文化財所在地】

